 シリーズ「きょうだいの思い」 47

『安心感』

結婚して夫婦2人の生活が始まった当初、静か過ぎる毎日と自由過ぎる家の空間に戸惑った。弟が義務教育の間、修学旅行等で外泊することがあったが、その度に母が

「〇〇が居ないと、なんかリズムが狂うなあ」

「普通の家庭は、こんな感じなんやろうなあ」

としみじみ言っていたが、結婚した私も身を持って体感した。

弟は、物差しとサランラップの芯にこだわりがあり、広告チラシは独特の破り方をして、物差しやサランラップと同じような使い方をする。例えば、物差しを右手に持ち、左手首を内に曲げ、手首の骨の部分をコンコンと叩く。サランラップの芯でも同じようにする。広告チラシは、紙質がシッカリしたものを選び、独特の破り方をして同じ使い方をする。

家の中にこれらのこだわり物がある訳でもなく、破れたチラシが散乱してる訳でもなく、弟に大事な物を触られないよう隠す必要もない。そして何よりも弟の独り言やパニックが、日常の中にない。私は新しく始まった生活に、まず拍子抜けした。

当初は、弟を家に招いて夫と食事をする度に、母が必ず

「一緒に食べてたら気忙しいやろう。落ち着いてゆっくり食べた気がしないやろう」

と、夫を気遣った。飲み物をコップ満杯まで注ぐことも、一気に全部飲んでしまうことも、掻き込むように早く食べてしまうことも、独り言を言いながら食べることも、私には当然のことだったが、夫にすれば戸惑うことばかりだ(笑)

夫は、恋人時代にはわからなかった弟の色んな面を知っていったと思うが、何一つ嫌な顔をせず接してくれているのが有り難い。それを証明するのは弟の様子で、夫が少しでも曇った心を持っていれば、弟は夫を受け入れず懐かない。


小学生の頃からだったと思うが、弟は調子が良い時に「コソバシテクダサイ」と言って、脇をこそばすのを求めてくる。スキンシップを苦手とする自閉症の弟にとって、この要求は家族と限られた人だけだ。いつの頃からか、弟が夫にも「コソバシテクダサイ」と求めるようになり、弟と夫が笑う姿を見て、私は心から安心した。

前穂通信 まえほつうしん

発行日 2016年12月1日

発行元 自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600



 ノロウイルス・インフルエンザ等 感染症の予防対策

インフルエンザや、ノロウイルスによる感染症が流行しております。前穂でもアルコール消毒や、次亜塩素酸水、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を行っておりますが、更に予防に努めて参ります。

ご家庭でも予防に努められていることとは存じますが、ご利用前には今ひとたび、ご本人の体調管理にご留意頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

 年末年始のご案内

年末・年始、例年通り下記の日程にさせていただきます。宜しくお願い致します

※但し、最終日・開始日共に人員等の限りがございますので、ご希望に添えない場合はご容赦の程、宜しくお願い申し上げます。

ショートステイ 短期入所		ガイドヘルプ・ホームヘルプ	
年内最終ご宿泊	～12月29日(木)	最終日	12月29日(木)
年内最終日	12月30日(金) 昼食前後のお送りまで	開始日	1月4日(水)
年始開始日	1月4日(水) 午後のお迎えから		
年始ご宿泊開始日	1月4日(水)～		